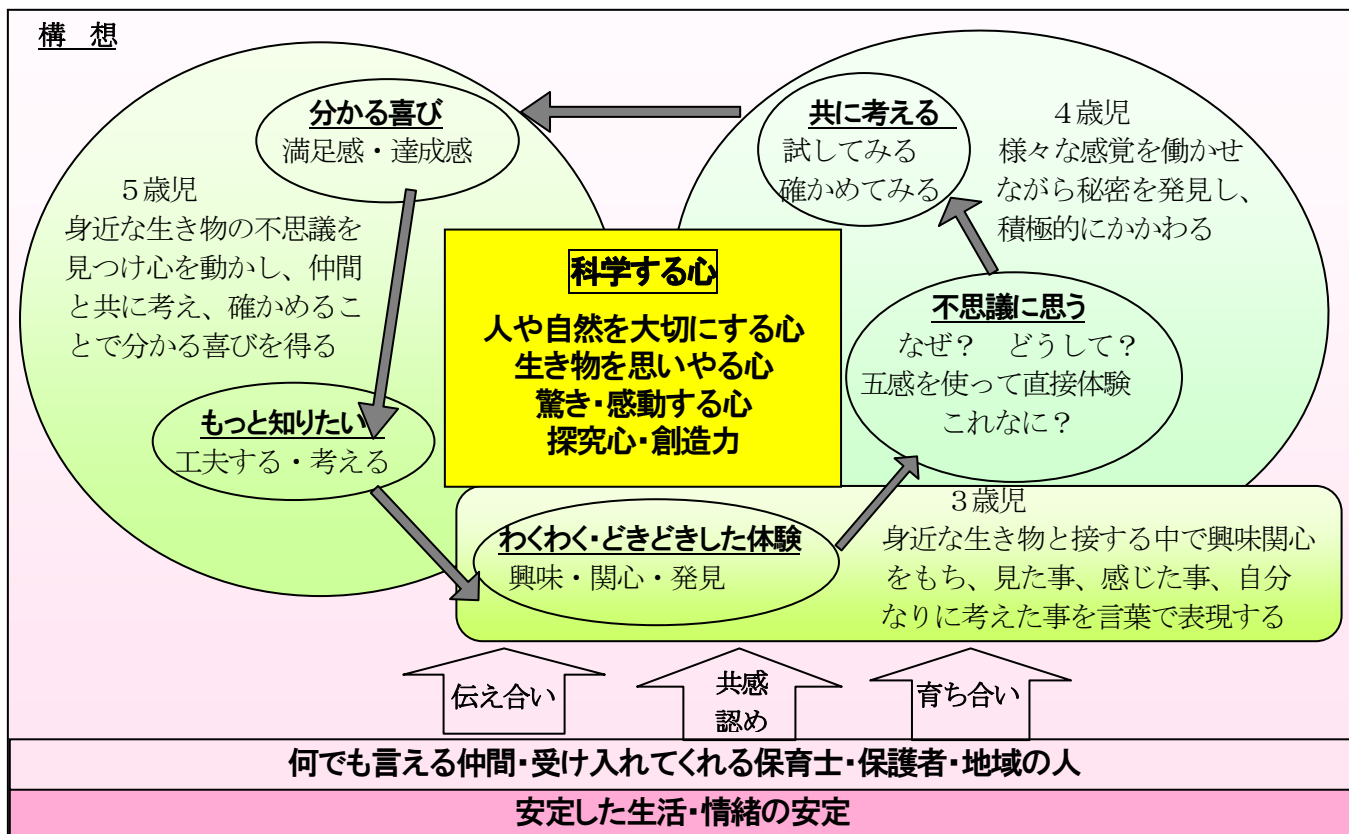


青虫の飼育の構想（園の構想・幼児の姿を踏まえて）
岡崎市城北保育園（愛知県岡崎市）

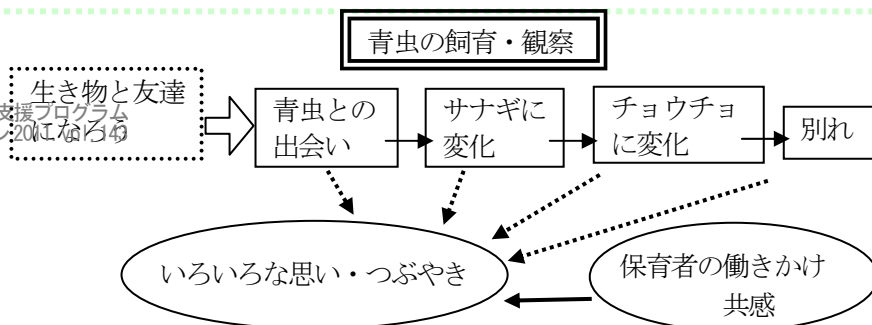
[3歳]

昨年は、「身近な動植物に親しみ、命のつながりに気付き共生して命を大切にすることを育もう」という主題を持ち、3歳児は小動物を常に自分と同じと考え親しみを深めていった。年齢としての押さえをしっかりと確認し進めていったため、子どもたちの動植物への興味・関心を無理なく高めることができ、自然と“もっと知りたい”“もっとやってみよう”という気持ちが芽生えていった。そこで、今年も、日常生活の中で子どもたちが動植物と関わり“わくわくドキドキする瞬間”や、“五感を働かせて全身を使って感じる喜び”を大切に、その中で疑問に思った事、不思議に感じた事にじっくり向き合い、共に考えたり、確かめたり、試したりすることで心を動かす体験を増やしていきたいと考えた。



◆ 3歳児の青虫の飼育の構想

3歳児は5月に生き物との出会いがあった。その時に死んでしまった虫とのかかわりの実態や実践を振り返った。その後、アゲハの幼虫を見つけた時には、上記の構想を踏まえ、右記のように「3歳児の飼育の構想」を考えました。



・自然現象をありのまま受け止め、嬉しい・楽しい・面白い・悲しいなど、心を動かす様子が見られる3歳児。身近な生き物の一生を目の前で観察することで、豊かな感性を育てていけることを期待し、取り組んでいきたい。

みどころ

園全体の構想に3歳児の発達を踏まえた体験が示されています。また、3歳児の指導計画や保育者自身の体験を通じた実態の中に、3歳児の5月の生き物との出会いの保育のイメージがあると思われます。そうした様々な視点から子どもたちの初めての虫との出会いの体験を考察し、評価を生かして「次の虫とのかかわりの構想」をもっています。